

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	2017/6/11
タイトル	狩込みどじょっこ会による草取り体験及びサツマイモの苗植え付け
水土里レポーター名	水土里ネット那須野ヶ原 参事 星野 恵美子

平成29年6月11日（日）、栃木県那須塩原市四区町にて活動する狩込みどじょっこ会による「田んぼの学校」が地域の親子、地元小学校の教師の方々、高校ボランティアを含め約40名が参加し開催されました。

最初にサツマイモの苗付けをおこないました。マルチを敷いた土に棒で穴を開け、サツマイモの挿し穂の節3つ分までを地中に埋め込むという作業です。子どもたちは慣れた手つきで苗付けをおこない、その後に保護者や高校生で植えた苗が枯れないように土をしっかりと被せていきました。

次は、草取り作業です。『農業とは雑草とのたたかいである』と言われるほど、すぐに雑草がはびこり、米作りの所要時間の半分近くが雑草取りと言われる所以です。除草作業は、時代と共に様々な工夫されてきました。現代では、多くは除草剤が使用されますが、田んぼの学校で使用する草取り機は、明治時代に発明された手押しの除草機です。とげのような鉄の歯がたくさん植え込まれた円筒状の車を稲と稲の間を押ししていくと雑草が泥と共に掻き揚げられ根ごと引き抜かれます、参加した子どもたちの体格からすれば、この機材を使った作業はとても労力を使うため、順番に田んぼの雑草取りを行いました。この作業は、雑草を取るだけでなく、土を掘ることによって無駄な稲の根を切り、土の中に空気を入れてやることで稲の発育を促す効果もあるそうです。

圃場に作られたビオトープにはメダカやカエル、ドジョウなどが生息しており、また、準絶滅危惧種でもある水草のアサザが生育しています。しかしこのアサザが増殖し、その葉っぱがビオトープの水面全体を覆ってしまい、他の水生生物に悪影響を与えかねないため、アサザが死滅しない程度に大部分の撤去作業を行いました。アサザは走出枝によってクローン生長していくため、泥の中まで手を突っ込み、根ごと枝を除去していきます。作業中、アサザと一緒にタニシやカエルなどの生き物が見つかり、次第に子どもたちは生き物採集に夢中になっていました。

様々なものが高度化し簡略化され、現代において、農村地域の農業従事者が減少の一途をたどる状況の中、興味・関心を抱いている子どもたちを目の当たりし、『田んぼの学校』の活動が、これからの未来を担う子供達の一助となり、昔ながらの農作業を体験することでそれらの継承に繋がっていくことを、身をもって感じる事ができました。

